

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1276000112		
法人名	(有)桜ケアセンター		
事業所名	グループホーム憩の家		
所在地	山武市本須賀3841-2		
自己評価作成日	平成26年12月10日	評価結果市町村受理日	平成27年6月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成27年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様及び家族、スタッフ3者の信頼関係の構築。そして、事故を起こさない安心安全の介護を目指しています。26年度は様々なイベントでご家族様と一緒に楽しむ機会を増やしました。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海が近い法人の敷地内にあり、利用者は日々自然を感じながら生活している。管理者と職員は、理念の内容をケアの一つひとつに照らし合わせて活動するよう心がけており、利用者本位のケアの実践に努めている。設立10年を経過したところであるが、さらに地域との連携を深めていこうと努めており、ホーム主催の納涼祭・敬老会等に積極的に地域に声かけを行ったり、法人の広報紙に区長に寄稿してもらうなど、ホームの存在をさらに知ってもらったためにいろいろな工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で経営の理念の読み合わせを行っている。また、介護の在り方などを様々な項目をリストアップして読み合わせをしている。	日々のケアが理念に沿っているかどうか確認をしながら活動するよう心がけている。朝礼で読み合わせるだけでなく、具体的な「課題」を作って職員の意識を統一させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治体の呼びかけに積極的に答えている。秋祭りには、利用者さまの作品を公民館に展示し、利用差のみなさんで参加している。地域のフラダンスメンバーが慰問に来てくださる。おたよりをお渡ししている。	ホーム主催の納涼祭・敬老会等に積極的に地域に声かけを行うなど交流に努めている。法人の広報紙は区長からの寄稿を得たり、ホームの存在を知ってもらったためにいろいろな工夫をしている。地域の大学の介護実務研修生の受け入れなどもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭などイベントには地域の方をお誘いして利用者さまと一緒に楽しんでいただいている。個別にボランティアの申し出もあるが、体制のこともあり実現に至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一回会議を行ってきた。今年度後半から、イベントのご家族を招待することもあって、イベントを会議に解消してしまうことがあった。	往復ハガキを使用して参加者を募るようにして、年6回実施した。会議の議事録は家族にも送付し、情報発信している。今年度はイベントに合わせて会議を開催するように試みた。	議事録は家族にも送付しているが、内容が伝わりにくい部分もあり、記載方法を検討するとさらによいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者との意思疎通は行われている。グループホーム連絡会で毎月一度交流している。	市の担当課は運営推進会議にも出席している。また、「グループホーム連絡会」にも行政から職員が出席しており、情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が虐待防止の研修に参加するなど、身体拘束をしない実践をしている。	月1～2回の業務ミーティングで、拘束にあたる行為について確認を行い、職員間で共有している。また、外部研修に参加する職員がいる場合は、朝礼などで伝達するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	わがホームでは、虐待には十分注意するよう話し合いを行っている。常に介護の原点に立ち返って学習を積み重ねている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業等の学習は個々の対応に任せているので、全体で学ぶ機会を持ちたい。朝礼で介護福祉士の試験問題を半月ほど提出して学ぶことはあった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表と管理者で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に行っていない。日常的に、家族も利用者も何か問題や注文があれば、管理者・スタッフに言ってくる。運営に取り入れることがあれば全員会議(業務ミーティング)で検討している。	家族が来訪した際は、利用者と一緒に食事をとってもらったり、お茶を出すなど関係性をつくって、日頃から意見が言いやすい雰囲気をつくるようにしている。意見が出た場合は検討して反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務ミーティングで、業務の改善や利用者様の対応で積極的意見を交換している。スタッフは何でも言える状況にある。	業務ミーティングでは「気になる利用者さん」という協議項目があり、気付き・改善点・工夫内容を職員が発表し、共有する様にしている。代表者は職員と同じ目線で意見を把握するように心がけ、運営に関する意見についても反映に努めており、職員が希望の外部研修に参加したいという場合は調整して希望に沿うようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	要望が出されればその要望に合って改善を行う。これまでもそうしてきた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に介護の基本に立ち返ることを日課にしているが、法人内の研修としては不十分な位置付である。法人内の研修を位置付けていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会で学習会の企画、山武市の健康福祉祭りの参加など、共同行動を行っている。		

自己 自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望を最優先している。寄り添いを常に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の負担ができるだけ少なくなるよう、通院などどうしたらよいかを相談している。要望についてはこれまでもきちんと対応してきている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に家族・入居者の要望を取り入れている。残存機能を積極的に使うよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に対等平等の観点でケアを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係はとかく薄れがちだが、イベント開催時や運営会議で忌憚のない意見を出していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特別な関係継続の支援は行っていない。利用者から「家を見たい」など要求には応えている。地域での付き合いのある方の訪問を受け入れている。	家族や知り合いが来訪した場合は、ゆっくり面会できるように配慮している。また、年賀状や暑中見舞いを代筆したり、馴染みの店に買い物に行くなど、これまでの関係性継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	見なさん仲の良い方々なので、孤立されている方はいない。利用者さんが気を使って支えあっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	おひとりに対してご家族訪問を続けていたが、多望を理由に訪問が途切れている。再開させたいと思っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様からの要望は大事にしている。その場で要求を叶えるよう努力している。困難なものはスタッフの全体会議で検討している。	言葉で表現できる利用者は少なくなってきたが、表情を見ながら、また家族の話を聞きながら、思いの把握に努めている。特に、「〇〇食べたい。」と話が出たメニューについては、すぐに反映するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常にアセスメントを振りかえるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のミーティングで、夜間の状況、昼間の状況を報告して、その日にやるべきことなど確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームでのモニタリングは、今後の課題。スタッフ間では、毎朝のミーティング、月1回の業務ミーティングで個々の利用者様の検討を行っているが、家族の参加まで至っていない。	月1回の業務ミーティングで、利用者の様子やケアの方向性を確認している。しかし、介護計画について、書面での見直しの確認が取れない部分も見受けられた。	日々のケアは、介護計画を共通認識として職員で共有し、計画を照らし合わせながら、モニタリング、見直しをして書面でも確認できるようにすることが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌で昼間、夜間の個々の状況を記入している。この情報は全員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟なケアは大事なので大切にしたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が外に出ていくということは、病状等からかなり厳しく、スタッフ同行でも同様難しい。地域のお祭り等近所のイベントには、積極的参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携は十分行われている。往診は毎月定期的に来ていただいている。緊急時には往診を含めアドバイスをいただいている。24時間対応。	家族の協力を得ながら在宅時からの主治医を継続するなど、本人及び家族の希望を尊重して受診の支援を行っている。家族が同行する場合も必ずホームでの様子を伝え、受診後には結果を聞き情報の共有に努めている。また、場合によっては職員が診察に同行し、日ごろの様子を医師に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接しているデイサービスの看護師に相談していて、褥瘡など対応に支援・アドバイスをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した利用者には訪問などしてお話をしている、早く退院したいなどの要求には病院関係に伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまで数人の終末医療に携わってきているが、家族の方や世話をされていた民生委員の方からは感謝の言葉をいただいている。家族への説明は代表等から行っている。	入所時に終末期ケアについての指針等を説明して同意書を得ている。協力医療機関は24時間の対応が可能であり、介護職員も喀痰吸引の講習を受けるなど、終末期の利用者を支援する体制はできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生やその学習など、年1回は消防署の支援で行なうようにしている。来年は勉強会を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は夜間に津波発生を想定した訓練を行った。防災訓練は毎年、消防署の支援で行っている。	昨年度作成した震災マニュアルを踏まえ、夜間の地震を想定した訓練を新たに行った。また、消防署立ち合いの火災を想定した避難訓練でも、防災士の講話を取り入れるなど、内容を工夫した訓練を実施している。現在は非常用袋の準備を進めているところである。	

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に「大きな声は出さない」「命令はしない」といった標語を勤務表に書いているなど、注意を喚起している。また、スタッフの利用者様に対する命令はなくなっていない。しかし、そういうスタッフは特定で、かなり改善されてきている。	具体的な目標を毎月作成しており、その中にも一人ひとりの尊重とプライバシーの確保につながるような項目がある。職員全員が確認する勤務表にその目標を記載し、日々確認し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	そのように努力している。働きかけとしては、とくにされていない、利用者様が自主的な行動に出る場合、見守りと焦らずに自己表出を待つようにしたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で仕事が進む場合も発生しているが、管理者がその場にいるときは注意を行うが、完全にはなくなっていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常はみなさん好きなものを着て、それなりにおしゃれをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さん食事をとても楽しみにしています。パンが食べたいという利用者さんには、パンを食べていただいています。歩ける方は、準備や後片付けをしていただいています。	職員の手作りにこだわり、栄養バランスや彩りのよい食事を提供することを大切にしている。また、誕生日ケーキの飾りつけと一緒に、利用者に参加できる機会もつくるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、複数の方は気分によってなかなか手を付けていただけないときもありますが、ほぼみなさん毎回完食されています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしています。入れ歯の方も外されて行います。全介助はお二人（介護度5）だけになります。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	寝たきり状態以外の方は、トイレは自立されていますが、複数人に対してはトイレまで誘導をスタッフがやっている。	尿意がない利用者にも、2～3時間ごとに声かけを行い、自立排泄につながるような支援に努めている。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者についても、安全面に気を配りながら見守りで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対しては、医師との連携を行い下剤などの対応をしている。水分を多くとることや食事の工夫は行うが運動等の対応は不十分。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	要求がある場合は、入浴の日ではなくても対応している。しかし、入浴日は決められており交代で入っていただいている。「個々にそった支援」は難しいと思う。その日その日のスタッフのやりくりは困難。入浴日は週4日。	基本は週4回の入浴日の中で2回は入れるように声かけをしているが、日程、回数など、要望があればその都度対応をしている。ひのきの浴槽からは庭や灯籠が見え、利用者の楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での休息、睡眠は自由に行っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局販売員の資格を持つ担当スタッフが服薬管理をしている。食事時に服薬については、指名の確認等行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月のように行われる誕生日会、慰問の歌や踊り、納涼祭やクリスマス会など、手作りのお料理など家族参加で大いに楽しんでもらっている。イベントには、バンド演奏をお願いしている。生活歴を生かした役割は、今後の課題。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的には、ホームの近辺の散歩は積極的に行うよう努力している。あじさい祭り、桜の花見は年中行事となっている。皆さんで外に出かけるということでは、上記以外のことも検討していきたい。	歩くことが難しい場合でも、敷地の周りに出たり、隣接の施設に行くなど、日常的にホームの外に出られるような支援をしている。職員も、外出後の利用者の満足度が高いことを感じており、外出支援の機会を増やしている。季節ごとの花見や祭りなどにも出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様はお金の管理はできていません。購入品はご家族と相談で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	当ホームでは手紙を書ける状態の方はいないが、今後そのような方が入所された場合は大いに支援していく。電話については、希望者に対しては対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い、または消毒をして環境には注意をしている。	室内には絵画や写真を飾り、あたたかい雰囲気になるよう心がけている。庭の花木などからも季節を感じる事ができる。また居間から見るだけでなく、スロープを使って庭に出ることもできる作りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間(リビング)では、それぞれの定席がほぼ決まっている。テーブルは6人が座り、食事時やお茶の時間にはおしゃべりを楽しんでいる。あきたらソファに座ってテレビやカラオケを楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫ほどではないが、好きなものを自由においていただいている。	各居室とも造り付けの家具設置されているが、その他に利用者が使いなれた家具や好きなものを置いたり、家族の写真などを飾るなど、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心・安全の生活は私たちのモットーとしている。ホーム内は皆さん自由に行動をされている。		